

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正 使用 措置	感染症(Pf)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質 Alicon Prio Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁 中にPrP ^{Sc} の前駆体であるPrP ^C を固定することができ た。PrP ^C の絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中でμ g/レンジ、ヒト乳汁中ではng/レンジであった。PrP ^C は、 均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高 温処理を施しても肉因性PrP ^C 濃度はわずかに減少した だけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrP ^{Sc} の感 染源となる可能性を示唆する。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ProMED- mail20070108.0081	英国保健省は2007年1月8日、CJD患者数に関する最新 情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、 vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確 定)48名で、死亡患者総数は158名である。生存中の vCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例 総数は185名である。2006年12月4日の月例統計以来、死 亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は 1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減 少しつつあるとすると見解に一致する。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ABC Newsletter 2006年12月15日 5- 6ページ	米国で製造された血漿由来の第Ⅷ因子製剤による患者 へのvCJD病原体伝播のリスクは、極めて低いと見られ る。生物製剤評価調査センター(CBER)のSteven Anderson博士は、しかし、リスクはゼロではない」と伝達 性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の本日の会合で話した。 CBERは、2005年10月31日の委員会提示されたコン ピュータモデルと仮説に基づいたリスク分析案の概要を 示した。重要度解析では、リスクを決定する主要な要素 は、製造工程におけるvCJD感染因子の低減である。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。こ の症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの 赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナ ーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例 目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニン ホモ体であった。まだ生存中である。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ABC Newsletter 2007年2月9日 7-8 ページ	将来のvCJDによる死亡率は、供血に関する公衆衛生上 の施策によって予想されていたよりも遙かに低くなるだ ろ」と英国の研究者が報告した。Royal Society Journal Interface誌オンライン版によると、2080年までの輸血に よるvCJDの死亡例は50例と予測される。感染牛の採食に よるvCJD感染が排除されたため、現在では輸血による伝 播が最も可能性が高いと研究者は話している。